

トピック — たまねぎの需給動向 —

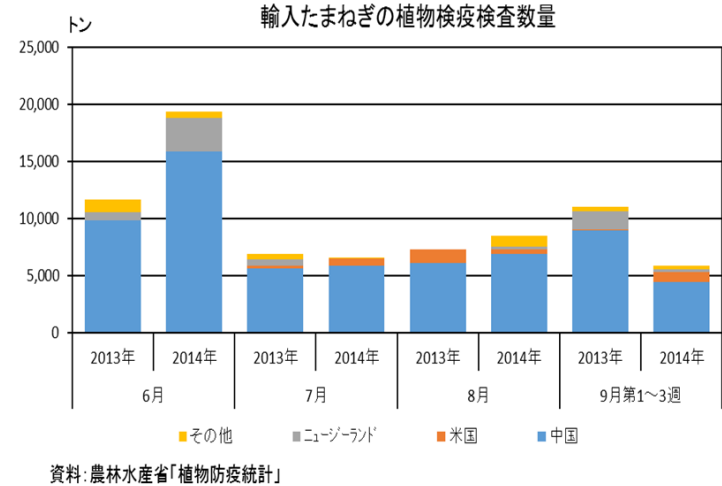
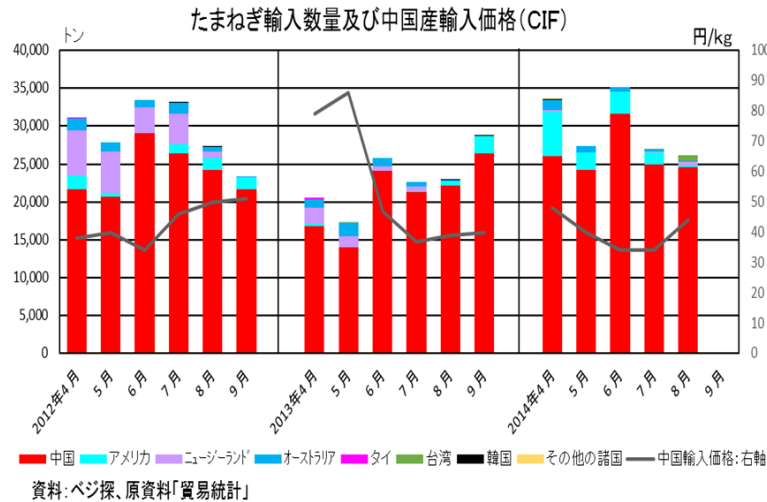
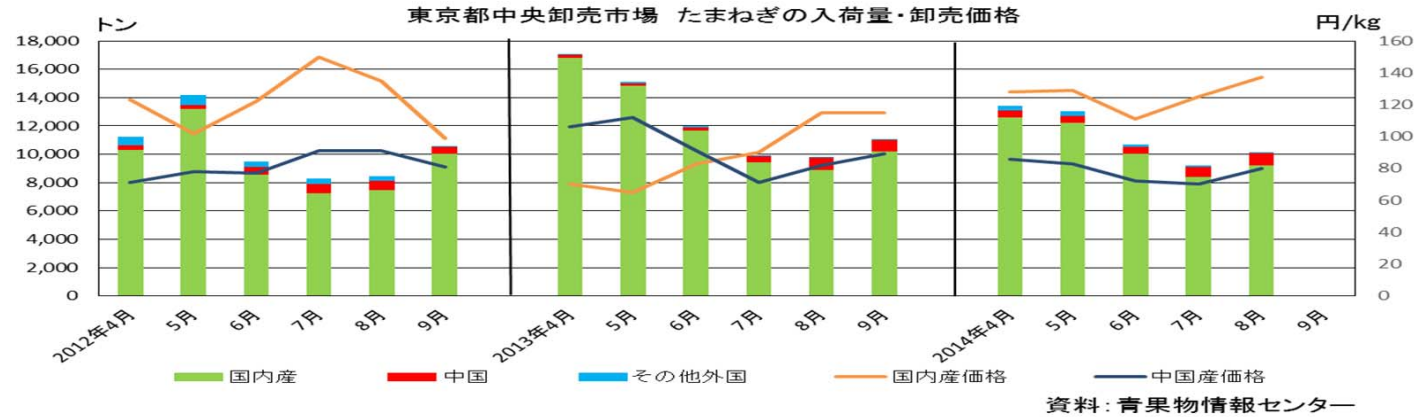
最近の生鮮野菜の輸入量（26年4～8月計）は、対前年同期比で12%増加しており、その主因はたまねぎの増加であることから、今回は、たまねぎの需給動向を紹介する。

東京都中央卸売市場のたまねぎの国内産入荷量（4～8月）をみると、兵庫県産の豊作に対し佐賀県産の作柄不良から前年を15%下回り、国内産価格は堅調に推移した。このため、生鮮たまねぎの輸入量は、昨年同時期が国内産の良好な作柄と価格低迷等により輸入が低水準であったこともあり、37%（中国産34%）の増加となった。

しかし、中国産たまねぎからは、7月25日に日本の基準値を超える残留農薬（チアメトキシサム）が確認され、8月8日に検査命令（残留農薬の全箱検査）が発令された。これに伴い、中国の国家質量（品質）監督検査検疫総局（CIQ）により、①輸出検査強化、②輸出企業への自主検査要請、③残留農薬が確認された輸出企業の産地の検査実施と当該検査結果が判明するまでの輸出停止が措置されたとみられている。この結果、中国産の輸入は、国内産価格が上昇していた7月及び8月においても、6月に比べると大幅な減少となった。

さらに、農林水産省植物防疫統計で9月の中国産の検査数量（第1～3週）を見ると前年検査実績を下回っている。主に外皮を剥いた形で輸入される中国産たまねぎは、加工業務用の固定需要が堅調なため、当面、中国産の価格は堅調に推移すると見込まれるが、ニュージーランド、韓国などからの代替輸入の動きもみられる。

9月以降の流通の主力となる北海道産の生育・出荷は、現時点で平年並みと見込まれ、卸売価格も概ね平年並みとなりつつある。輸入も含めて今後の需給動向の注視が重要である。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。